

まずは音楽家ありき

1990年代から、ニューヨークのジュリアード音楽院は韓国人弦楽器奏者だらけだし、韓国人団員は欧米のオーケストラでも目立つ。ヨーロッパの歌劇場専属歌手となる韓国声楽家も多い。世界的に見れば、現在の韓国は日本以上の演奏家生産大国だ。

そんな海外躍進を支える巨大なすそ野の広がりがある。ソウル大学音楽学部と韓国芸術総合学校音楽院を頂点に首都圏だけで37カ所の音楽学校があり、優秀な学生は卒業後に欧米露に留学。韓国を代表する月刊音楽雑誌『客席』のパク・ヨンジュン編集長によれば、「音楽留学生が持ち出す外貨は年間3000億ウォン（約300億円）にもなります」。KBS交響楽団、富川フィルハーモニック管弦楽団、コリアン・シンフォニー・オーケストラの3強を頂点に国内53の管弦楽団や、国立オペラ団、韓国オペラ団など33団体ある歌劇団に所属できれば幸運で、「帰国後は音大の先生になるのが一般的」（パク編集長）。

兵役がある男子はともかく、女子学生に限れば状況は日本に近い。極論す

韓国 クラシック 音楽事情

ファウム・チェンバー・
オーケストラの来日によせて

わたなべ やわら
渡辺 和
音楽ジャーナリスト

韓国総人口の4分の1近くを抱える1000万都市ソウルには、伝統芸能パンソリから韓流ポップスまで、さまざまな音楽文化が咲きほこる。他のアジア諸国とは異なる独自の展開を遂げて数十年、クラシック音楽も立派なハイカルチャーのひとつだ。日韓友情年事業として11月にジャパンファンデーションが招へい、来日公演を行なうファウム・チェンバー・オーケストラの結成10周年記念演奏会に合わせ、この巨大都市を訪れた。当地の音楽事情、他山の石か、隣の芝生か。



ファウム・チェンバー・オーケストラ。年間に3シーズンの演奏会は、メンバーが世界各地からソウルに集まり、行なわれる。ファウムは漢字では「畫音」で、絵には音楽があると、音楽にも絵があるという団員の思いを表している
撮影：筆者（以下も同じ）

れば、韓国の西洋芸術教育は「良家の子女の嗜み」なのだ。結果として、こ
れまた日本同様、需要と供給のアンバ
ランスが慢性化している。

ソウル公演場トップスリーの性格

かくも膨大な人的資源を無駄にできぬ。韓国では、日本よりもはるかに体系的に、アーティスト支援体制を整えている。パク編集長がソウル3強に挙げる施設を見てみよう。

ソウル随一の目抜き通り光化門路に勇姿を誇る世宗文化会館は、1978年にオープンしたソウル市直営の大ホール。貸館ばかりか、ソウル市交響楽団、合唱団、ユースオーケストラなど9つの団体をレジデンシーとし、それら演奏団体の支援育成も行なって

わたなべ やわら●1986年、国際基督教大学大学院比較文化研究科修士課程修了。比較宗教表現論専攻。宗教音楽、室内楽を中心に、演奏会プログラム執筆、インタビュー、翻訳、通訳など、フリー音楽ジャーナリストとして活動。『音楽の友』『ストリング』『教育音楽』『The Strad』などに寄稿。聴衆拡大プログラム「仲道都代の音楽学校」構成協力。92年以降、ゆふいん音楽祭に広報スタッフとして参加。97年以降、カナダ・オタワで隔年開催される国際弦楽四重奏シンポジウム評論家部会に招へいされている

きた。アジア通貨危機後の99年に会館は財団化され、各演奏団体も独立財団化が進んでいる。市の新アーツセンター設計コンペが始まったも、未だ市の音楽文化の象徴たることは事実。

国の文化支援の中心が、発展著しい江南（ソウル南部地区）の奥に広大な敷地を有する「芸術の殿堂」。88年以降、オペラハウス、コンサートホール、美術館、小劇場、映像センターまで備えた総合文化施設に発展した。ここも国営から財団化され、国立オペラ団やコリアン・シンフォニー・オーケストラなど傘下の文化団体が、レジデンシー化を見据え活動している。自主公演では聴衆拡大活動も活発だ。

パク編集長がソウル3強に挙げた最後は民間施設。ソウル新都心、江南の地下鉄、駅三駅真上、高層ビルの低層階に納められたLGアーツセンターだ。

2000年に完成したばかり、1100席ほどのホールがひとつだが、年間6カ月の自主公演期間中は、現代舞踊やワールドミュージック、古楽器、ファウム・チェンバー・オーケストラの室内楽、歌曲など、世界最先端の舞台を提供。ソウルで最もクールな芸術空間として知的芸術愛好家の高い評価を受けている。

ファウム・チェンバー・オーケストラというあり方

海外留学したエリート弦楽器奏者たちが、満足いく芸術水準の音楽をするため、官民の支援を得て自主的に活動するための団体を組織する——そんなソウルの音楽団体の典型例が、11月に来日公演を行なうファウム・チェンバー・オーケストラである。

パク編集長も33団体ある韓国の室内合奏団のトップ3のひとつに挙げるこの指揮者なし弦楽合奏団は、民間企業CJグループの全面的支援を受けている。北米在住でソリストと

して知られるベ・イクアンをコンサートマスターに、ヴィオラはドイツ人ブッフホルツ、コントラバスは日本人の文屋充徳をリーダーに置き、学閥や長老支配と一線を画した芸術至上主義を表明する。メンバーは、ジュリアード音楽院やケルン音楽院で学び帰国した俊英ばかり。練習も英語だ。年間に3シーズンの演奏会は、世界各地から団員がソウルに集まり、1週間の練習を重ね、その後にツアーを行なう。

「私たちは4人のリーダーを持ち、団員すべてが個性的であるという意味で、とてもユニークな団体です。韓国で最高の室内オーケストラとして、自分らの特徴であるエネルギー感を日本でも出せれば、と思います」（パク・サンヨン团长）

「アジアの中でも、日本と韓国、中国ではやっている音楽が違くとわかればおもしろいんじゃないですか。このグループは外国人は2人だから、やっぱり韓国の音ですよ。ダイナミックで、フォルテシモの上に限界がない」（文屋）問題もさまざまあるが、音楽家たちの個性とやりたいことを実現する可能性を提供しているソウルの潜在力は大きい。

ファウム・チェンバー・オーケストラ来日公演

韓国の室内合奏団ファウム・チェンバー・オーケストラの来日公演が東京及び神戸で開催されます。

◇ 2005年11月21日（月）神戸新聞松方ホール 開演19時15分
24日（木）第一生命ホール（東京）開演19時15分

曲目：	チャイコフスキー「フィレンツェの思い出」
	ベク・ピョンドン「折れた背骨」ほか
主催：	国際交流基金／韓国国際交流財団／トリトン・アーツ・ネットワーク（東京公演）／神戸新聞文化財団、コジマ・コンサートマネジメント（神戸公演）
チケットお問い合わせ：	
神戸公演	神戸新聞松方ホールチケットセンター 078-362-7191
	コジマ・コンサートマネジメント 06-6241-8255
東京公演	トリトン・アーツ・ネットワーク
	チケットデスク 03-3532-5702